

校名に係る補足説明（遠友夜学校等について）

1 遠友夜学校について（さっぽろ文庫 18 「遠友夜学校」より）

(1) 新渡戸稲造博士の年表

時期	内容
1862年（文久2年）	盛岡市に生まれる
1876年（明治9年）	東京英語学校入学(14歳)
1877年（明治10年）	札幌農学校入学（15歳）
1881年（明治14年）	札幌農学校卒業（20歳）
1884年（明治17年）	渡米し、ジョンズホプキンス大学入学 ※ この頃に妻の万里子（メリー）と結婚
1887年（明治20年）	札幌農学校助教授となり、農政学研究のため渡独
1891年（明治24年）	帰札し、札幌農学校教授に就任（30歳）
1893年（明治26年）	妻の万里子に1,000ドルの遺産が届く ※ 家族同様だった使用人の遺言による遺産
1894年（明治27年）	南4西4の敷地500坪と古い二階建ての一軒家を買取り、夜学校開校
1897年（明治30年）	体調を崩し、伊香保やアメリカで転地療養 ※ この頃「農業本論」や「武士道」を著す
	台湾で総督府殖産局長となり、農事試験場を設立するなど産業発展に寄与
1903年（明治36年）	日本に戻り京都大学教授就任
1906年（明治39年）	文部科学大臣の依頼により、東京の第一高等学校校長就任
1911年（明治44年）	日本人初の日米交換教授として渡米
1918年（大正7年）	東京女子大学学長に就任
1920年（大正9年）	国際連盟事務次長に就任（58歳） 【1919年に第一次世界大戦終戦】
1925年（大正14年）	国際連盟を辞任（昭和2年帰国）
1933年（昭和8年）	日本が国際連盟から脱退、同年の第五回太平洋会議に参加する中で逝去

(2) 遠友夜学校設置の経緯

ア 新渡戸稲造博士の考え

新渡戸稲造博士は貧困問題の解決が非常に重要であるとの認識をもっており、以下のような「札幌市民学園」を作りたいという構想を若いころから持っていた

- ① 老人あるいは成人を対象とし、講義は日本語をもって歴史・経済学・農学及び自然科学を学校
- ② 専門学校や大学の入学準備を希望するが予備校に正規の出席ができない青少年に対する学校 ⇒ **北鳴学校（北海道初の中学校）の教頭となり実現**
- ③ 貧しい両親を持った、粗野な子どもたちや日雇い労働者など出面の子弟に対する夜学校で、これらには日本語の初歩と英語少々、そして算数を教える
⇒ **遠友夜学校として実現**
※ これらに女子部を併設する場合は、刺繍・裁縫・編物・英語及び国文学の勉強ができるようにする

イ 設置の経緯

- 妻の下に 1,000 ドル (2,000 円) の遺産が入る
- この遺産を基に、南 4 東 4 にあった民家を土地ごと買い取り、遠友夜学校を開設。

★ 遠友の由来

- ・ 原典は孔子の論語の最初の学問の勧めの句
「子曰く、学んで時にこれを習う、また喜ばしからずや、友有遠方より来る、また楽しからずや、人知らずしてうらみず、また君子ならずや」

◆ 新渡戸稲造博士の講演から

国も名も言葉もわからぬ人、何処の人とも言われぬ人がやってきて、会って話してみるとなんとなくわかる。このような人は名を知らず、国を知らずとも心と心が合えば即ち友達である。友人とは名を知るのが条件ではなく、心が合えば良いのである。年齢が違っても、地位が違っても、一人はくらの高い役人でも一人は偉い学者でもそれは大したことはない。相会って金持ちだと威張らぬ、学者だとして役人だとして下を見下げぬ、なんとなく気持ちが良い、こういう人と会うと嬉しい、これこそ人間の楽しみである

ウ 遠友夜学校の概要

- 設立当初は週 2 回程度希望する科目を教えていたが、徐々に拡大し、年中無休に近い教育活動となる（日曜日は生徒の自主的な修養会など）
- 教育内容も徐々に整い、最終的には文部科学省の教科に準拠したが、教員は大学生有志（無資格者）であったこともあり、正式な教育機関とは認められなかった。
- 授業料は無料であり、当時珍しい男女共学
 - ※ 明治 32 年の時の在校生等の内訳は、
 - ・ 生徒数 102 名（うち尋常科 67 名、高等科 35 名、男 40 名、女 62 名）
 - ・ 16 歳以上が 28 名（20 歳以上が 5 名）

エ 遠友夜学校の閉校（累計の卒業生数は 1,100 人以上）

以下の要素などが重なり、昭和 19 年 1 月に閉校

- ・ 国の教育機関の統一方針による生徒の減少（義務教育就学率の向上）
- ・ 戦時下による施設の引き渡し（逓信局の倉庫として引き渡し命令） など

2 資生館・創成小学校について（さっぽろ文庫 46 「札幌の小学校」より）

- 明治 2 年札幌本府の建設に当たり、多くの官員が札幌に移住してきたことから、その子弟の教育のため明治 4 年に「資生館」が開設。
- 元々は官吏養成の教育施設であったが、一般市民の入学も許可するようになり、明治 9 年に「公立第一小学校」となる（その後明治 14 年には創成小学校と改称）
 - ※ 「資生館」は札幌最古の教育施設であり、資生館の流れを汲む創成小学校は札幌における最初の小学校
- 平成 15 年の資生館小学校への統合によって閉校。